

生涯学習の意義と免許の更新制

薬剤師のステータスを高めるために必要な方向性

生涯学習の励行は自然に免許の更新制につながる

薬剤師にとって生涯学習が必須である理由についてはよくご承知と思います。患者が最善の薬物療法を有効かつ安全に受けられるようにあらゆる手助けをするのが「ファーマシューティカルケア」の基本であり、また薬剤師の社会的責任でもあります。そのために薬剤師は生涯を通じて自ら学習することによって専門能力と適性を維持する必要があるからです。

生涯学習により一定以上の単位を取得すれば、その証明として、研修認定薬剤師あるいは特定領域認定薬剤師として認定証を得ることができます。生涯学習を効果的に継続するには、別項で紹介した CPD モデルが有用ですが、その目標は、学習が進むと共により高く設定する努力が必要です。生涯学習は成果として完結することはありません。評価されるべき成果は、無意識に進む知識の蓄積であり、学習の記録、受講者自身が得たインパクト、いつでも復習できる資料等があって、学習努力を継続しているという実績が重要です。

薬剤師免許が更新性になれば、生涯学習の単位を一定数以上取得することが更新の条件となりますから、現状で生涯学習の認定証を受けることは免許更新と同じ意味を持っています。更新制になれば、生涯学習の単位により認定申請ではなく免許更新申請をすることになるだけのことです。

国家資格の更新（研修の義務化）は、知的職能においては常識となる趨勢にあります。薬剤師免許が更新制となれば、生命と安全をあずかる専門職能としての薬剤師に対する世の中の信頼感、あるいは期待が格段と大きくなるに違いありません。